

事業名称	ミテ・ハナソウ・プロジェクト連携事業		
実行委員会	ミテ・ハナソウ・プロジェクト連携実行委員会		
中核館	佐倉市立美術館		
	住所	〒285-0023 千葉県佐倉市新町 210 番地	
	TEL	043-485-7851	FAX 043-485-9892
	ホームページ	http://www.city.sakura.lg.jp/sakura/museum/	
構成団体	印旛地区教育研究会 図工・美術研究部／佐倉市教育委員会 指導課／佐倉市教育委員会 文化課／介護老人保健施設 ユーカリ優都苑		
事業開始時点の課題分析	<p>佐倉市立美術館では、平成 25 年度より「対話による美術鑑賞」を提案する「ミテ・ハナソウ・プロジェクト」をおこなってきた。対話型鑑賞をリードするボランティアの鑑賞コミュニケーター「ミテハナさん」を 3 期まで募集・育成し現在 46 名となっている。平成 27 年度からは助成金を受け、学校連携活動と、対話で楽しむ展覧会「ミテ・ハナソウ展」の運営もミテハナさんが担うなど、活動が本格的に動き出すと同時に目標を上回る反響があった。</p> <p>しかしながら、美術館訪問を希望する学校は、すべて対話型を受け入れてくれるようになる一方、体験していない学校からの希望は増えず、同じ佐倉市内でも芸術文化体験の格差が生まれている。</p> <p>また、3 年連続して開催した「ミテ・ハナソウ展」は、リピート率がこども 50%、大人 25%と高く、特定の来館者育成については大きな成果をあげた一方、通常の展示を期待している来館者の一部からは戸惑う声もきかれた。</p> <p>28 年より毎月 1 回、一般向けのトーク「ミテ・ハナソウ・カイ」も開始しているが、参加者の集まりは未だよくない。</p> <p>29 年度試験的におこなった高齢者施設での実施も大きな成果をあげ、継続の要望があるが、今後の展開が課題である。</p> <p>3 年間の補助金によって、事業を実施する体制は整ったものの、ボランティアが中心となってこれを維持し、さらに同じことの繰り返しではない、変わっていく状況に対応できる組織として継続していくことが課題となっている。</p>		
事業目的	<p>このプロジェクトの最終的なビジョンは、鑑賞ボランティアのミテ*ハナさんを中心に、市民主導で行動を起こし、老若男女、障がいのある人もない人も、外国をルーツにする人も、多様な市民を包摂しながら、地域の新しい文化をつくること、そのようなボトムアップの地域社会を美術館を核にして実現することである。</p> <p>対話による鑑賞、そのファシリテーターという活動を通じて、学校連携事業の子どもたちも、高齢者施設の入居者たちも、ミテ*ハナさん自体も、そうした方向に向かう姿勢を身に着けていく可能性が見えてきた。しかし、これを維持していくためには、単に事業が「実施できる」というだけではなく、常によりよい事業をめざして、全体のコーディネート力や企画力を育み、より自律的に活動を続けていく力を育てることが当面の目標となる。</p> <p>すでにそれぞれの事業について、次の課題や展開が見えてきているので、まずはこれらにいっしょにとりくむことで、ミテ*ハナさんが成長していくことを目指したい。また美術の知識は不要として募集をしたミテ*ハナさんだが、以前中核館でおこなっていた現代</p>		

	<p>のアーティストとともに地域の課題に取り組むワークショップはミテ*ハナさんに大きな刺激を与えると思われる。今後5年間では、鑑賞ボランティアからアートワークショップのファシリテーターへという新たな方向性を視野に入れて、準備を進めたい。また昨年おこなった外部評価では大きな成果が得られたと考えているので、今後も記録・評価をおこない、他の文化施設のモデルとなるよう、それを発信していきたい。</p>
<p>事業概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校連携：昨年度は8校実施しているが、将来的には小学校全校23校の実施をめざしたい。そのためには出前授業で一定の成果を得られるプログラムを開発することが必要であり、その効果を未体験の先生にもわかりやすく伝えられるようにしたい。今年度はそのための準備として、プログラム、ツールづくりの研究を始めたい。 2. 高齢者施設連携：試験的におこなってきたユウカリ優都苑での事業を継続し、施設の要望に沿ってプログラムを改善していきたい。 3. 一般向け鑑賞プログラム：毎月のミテ・ハナソウ・カイの改善や広報の研究、対話型鑑賞を希望する団体向けのプログラムをその都度開発していく。 4. ミテ*ハナ研修：地域に生きるミテハナさんが常に新しいアイディアを出し、活動を生み出すことをサポートしていく。 5. 年間報告書の作成：記録を残し、今後の活動や外への発信の準備をする。
<p>区分</p>	<p>(1) 地域の歴史、地域の有形無形の文化財との連携、地域の人材交流</p> <p><input type="checkbox"/>ア 地域の文化財の魅力発信</p> <p><input type="checkbox"/>イ 地域の文化財を活用した多様な活動の充実</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 美術館・博物館の情報発信機能の強化</p> <p><input type="checkbox"/>エ 専門人材の育成・確保</p> <p>(2) 地域の文化施設等との連携</p> <p><input type="checkbox"/>ア 地域の文化施設との連携による面的・一体的な企画の実施</p> <p><input type="checkbox"/>イ 美術館・歴史博物館クラスター（集積地）としての広報活動</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校連携事業(小学生を対象) <ol style="list-style-type: none"> (1) 小学校と連携した出前授業の充実 <ol style="list-style-type: none"> ① 出前授業のプログラムの検討会議・ツールの開発 ② コーディネーターの育成 ③ アンケートの実施 2. 高齢者施設との連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設でのプログラムの充実 3. 一般鑑賞者に向けての対話による鑑賞プログラム事業 <ol style="list-style-type: none"> (1) 月例ミテ・ハナソウ・カイの充実 <ol style="list-style-type: none"> ① ミテ・ハナソウ・カイキャンペーンの実施 ② アンケートの実施 (2) 希望する団体に対応するプログラムづくり <ol style="list-style-type: none"> ① 希望する団体にあわせたプログラムの開発・実施 4. ミテ*ハナ研修の充実（企画作成研修・コーディネーター養成研修）

	<p>5. 1年間の実施報告書の制作</p> <p>① 写真撮影・アンケートの分類保存管理</p> <p>② 報告書の編集・作成</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>平成 27～29 年度に 3 年間の助成をいただき、ミテ・ハナソウ・プロジェクト連携事業の基礎ができた。今年度はそれを確認しながら、事業としてはあえて基礎的なものに絞って実施し、その中で鑑賞コミュニケーターの 1 人 1 人が力をつけていくことや、今後を見据えて新たな可能性を探る部分に助成金を使わせていただいた。</p> <p>出前プログラムの学校数は 8 校から 11 校に増加、毎回振り返りの中でプログラムについても話し合いを多く持ち、内容の検討もおこなってきた。また 2020 年度に隣接する成田市で開催される全国造形教育研究大会に「ミテ・ハナソウ」も参加させていただくお話があり、その準備として成田市でも出前プログラムをおこなった。</p> <p>高齢者施設・優都苑での活動では、より多くの入居者に体験してもらいたいということで 1 つのグループは 1 年間・12 回で終了し、新しいグループと活動を始める形ができてきた。また続けたい方や未体験の方が自由に参加できる会も行うようになった。</p> <p>月例ミテ・ハナソウ・カイでは、スペシャルプログラムとして「赤ちゃんといっしょにミテ・ハナソウ・カイ」と「ミテ・ハナソウ・カイ+カフェ」を試行した。</p> <p>ミテ*ハナさん自体が企画・コーディネート力をつけていくことに関しては、学校連携プログラムや高齢者施設のプログラムを自主的に運営してだけでなく、月例ミテ・ハナソウ・カイのスペシャル版を企画する中で、夏休み子ども向けのおこなった「夏のミテ・ハナソウ・ルーム」の各プログラムを考えたり、公民館の講座でやってくる団体やボランティア協議会の研修の要望に応じてプログラムを作っていく中で徐々に鍛えられてきた。また 1 期生だけでなく、2 期生、3 期生からもプログラムづくりの中心となる人が現れるようになった。</p>

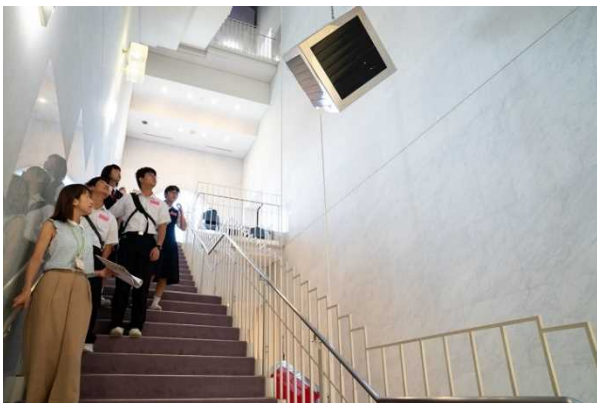
【事業実績】
学校連携事業

出前授業



ミテ・ハナソウ・カイの充実

夏のミテ・ハナソウ・ルーム



赤ちゃんと一緒に
ミテ・ハナソウ・カイ



* 高齢者施設での活動は写真が許可されませんでした

* <http://mitehana.com/>

参考
内郷小学校との
取り組みが
取材をうけました！



「島菌邸創建時模型」の前で対話する、そらっちくん(右中央)とじゅんじゅんさん(左から2人目)。

佐倉市立美術館では毎月第4日曜日、11:00～、14:00～の2回、子供から一般まで誰でも参加できる「ミテ・ハナソウ」も行っている。



ミテ・ハナソウ

佐倉市立美術館

「どこからそう思う？」 で発想が広がる

建築模型を見ながら、小学5年生の「そらっち」くんが言う。
「全体を見たときに、ここから雰囲気が変わっている。こっちは昔っぽいな。こっちは新しい」
「和洋折衷になっているということだね。どこからそう思ったの？」
と聞くのは、鑑賞ファシリテーターの「じゅんじゅん」さんだ。
そらっちくんは少し考えて「こっちは瓦屋根で、こっちはコンクリートだから」と説明した。

MOMAから生まれた 芸術鑑賞教育

千葉県佐倉市にある佐倉市立美術館で行われている学校連携事業では、子供たちが作品について熱く語っていた。この日の展示内容は、「知られざるドイツ建築の継承者」矢部又吉と佐倉の近代建築」。正直、かなり濃いテーマだが、子供たちから言葉があふれてくることに驚いた。
銀行の装飾(実物)の展示では、「王様の髪形みたい」「植物にも見える。ここにつぼみがある」「お祭りの山車にも見える」と感じたままを言葉にする。商店の設計図と模型の展示では、二つを比較して「屋上は設計図に描かれていないのにどうやってつくったのだろう」「同じ寸法のところは設計図で省略されているのかな」「ここに書かれた数字が長さを表しているのかも」と競うよう

本誌編集部=文 岡村智明=撮影

に疑問や発見を述べていた。

佐倉市立美術館では対話型鑑賞プロジェクト「ミテ・ハナソウ」に取り組んでいる。対話型鑑賞とは、1991年にニューヨーク近代美術館(MOMA)の教育部長だったフィリップ・ヤノウィン氏が開発した美術鑑賞教育で、英語では「VTS (Visual Thinking Strategies)」と呼ばれている。日本でこれを取り入れた活動を行うNPO法人 芸術資源開発機構(ARDA)の協力を得てプロジェクトを始めた学芸員の永山智子さんは言う。

「従来の鑑賞法と違うのは、作品に対する知識は問われないこと。まずは作品をじっくり見て、感じたままを言葉にすることから始まります」

アートの鑑賞に「正解」「不正解」はない

それにしても、子供たちはなぜ、雄弁に語れるのか。子供の頃、美術館に連れていってもらっても、何がおもしろいのかよくわからなかった自分と大違いだ。

「鑑賞ファシリテーターがもつとも心を砕いているのは、たくさん感じてもらおうこと。アートをみて感じたことは自分にとつての真実で「正解」も「不正解」もない。なんでも思うことを言っていんだよ」と子供たちには繰り返し伝えていきます」(永山さん)



上/設計図と模型とを比べて、いろんな発見をする子供たち。友達の見解を皆で聞く。聞く力も伸びる鑑賞会。下左/じっくりと作品に向き合う。グループで対話型鑑賞をしたあとは、個人鑑賞の時間も設けられている。下右/何にも見えるか熱心に語る。友達がうまく表現できないと助け舟を出してあげていた。



そのうえで鑑賞会では、次の三つの問いを投げかけるという。

「(作品の中で) 何が起こっているだろう?」「どこからそう思った?」「ほかにも発見はありますか?」。これらの問いに対する子供たちの発言を言い換えたり、他の発言とつないだりしながら、受け止める。やっていることはこれだけなのですが、子供の考えが深まったり、表現力が豊かになったり。まさにアクティブラーニングそのものだと感じています」(永山さん)

鑑賞会の後、感想を聞くと子供たちは興奮したように答えた。

「算数の授業とかだと正解が絶対にあるけど、鑑賞には正解がない、というかすべて正解だから、なんでも言えました。最初は難しそうって思ってたけど、やってみたら楽しかったです」(まみりちゃん)

「今まで美術館に行っても、あまりおもしろくないって思っていたけど、じっくり見て、感じたことを話してみても、みんなの意見も聞いていたら広がった。また美術館に行ってみたいです」(かずきくん)

子供たちの声を聞いて、担任の堀口彰子先生はほほ笑みながら言った。「今日教えていただいた美術を見る視点、本物から感じ取る学び方はどんなことにも通じます。子供たちの長い人生を豊かにしてくれると信じています」